

# ジャパンプラザの実践 ——オンライン留学移行後の活動報告——

土居美有紀・亀井文馨

## 要 旨

新型コロナウイルス感染拡大を受け、南山大学ではオンライン留学が始まり、日本人と留学生の交流の場の一つであったジャパンプラザもそのあり方の見直しを余儀なくされた。オンライン授業への変更後、留学生は対面授業時と比較し日本語の練習量が減っただけでなく、自国から授業を受けていたため、教師以外の日本人と話す機会も減少した。そのため、オンラインであっても留学生に日本人との交流や発話の機会を提供する場として、ジャパンプラザが貢献できる役割は大きいと考え、国際センター事務職員とTA、外国人留学生別科教員が協力し、オンライン・ジャパンプラザの運営に取り組んだ。時差等の問題により試行錯誤しながらの運営ではあったが、ジャパンプラザが留学生に学習支援や日本人との交流の機会を提供し続けられたことには大きな意義があったのではないだろうか。

キーワード：短期留学生、オンライン、交流、日本語サポート、TA

## 1. はじめに

2020年3月、本学外国人留学生別科で春学期が始まり2カ月弱が過ぎた頃、新型コロナウイルス感染拡大（以下COVID-19）を受け、短期留学生は帰国を余儀なくされ、自国から本学のオンライン授業を受けることになった。その後留学生の渡日は叶わなくなり、2020年秋学期から2022年春学期まで4学期に渡りオンライン授業が実施された。本稿では、留学生の日本語での交流や日本語学習サポートを目的とした学内施設「ジャパンプラザ」が、オンライン授業移行後それに合わせてオンライン化し、どのように活動状況と運営が変化していったかを振り返り、オンライン・ジャパンプラザの役割について述べる。

## 2. 背景

### 2.1. ジャパンプラザについて

授業外でも日本語を使って日本人と話したいという別科生の希望に応え、日本人学生との交流を活性化するため、2011年にジャパンプラザが開設された<sup>1)</sup>。ここは留学生がTA

(Teaching Assistant) や一般の日本人学生と日本語で交流を楽しんだり、TAから簡単な日本語学習のサポートを受けたりできる場所である。使用できる言語は日本語のみで、その他の言語は使用禁止のスペースとなっている点が特徴である。本学にはジャンプラザ開設以前の2007年に「ワールドプラザ」という、日本語禁止で英語や他の外国語のみで話す場所が設置されていたが、これは主に日本人学生の外国語学習サポートが目的のスペースとなっている。

ジャンプラザは、外国人留学生別科（以下別科）の学期中（秋学期9月～12月、春学期1月～5月）の平日午後1時から5時まで開室している<sup>2)</sup>。対面時の有給TAスタッフは、国際センター事務職員（以下事務職員）及び別科教員（以下教員）による書類と面談での選考があり、主に3、4年生から成る本学学部生数名と、人間文化研究科言語科学専攻の院生1、2名から成り、コロナ禍前の対面時は毎年14名程度の学生が在籍していた。学部生の募集は学科に制約はなく、人文学部や、外国語学部、国際教養学部からの学生の応募が多いが、経営学部などの学生もおり多岐にわたる。また、日本語教育に関する経験（日本語教員養成プログラム関連の授業履修経験、ボランティアとしての別科授業参加経験など）がある場合は採用時に考慮されるが、TA全員が将来日本語教師を目指しているわけではなく、日本語教師研修・養成を行う組織ではない。また、留学経験がある場合も留学生の心情に寄り添えるという点で考慮されている。開室時間中は1～3名程のTAが常駐しており、コロナ禍以前は留学生や日本人学生が自由に訪問し、日本語で会話を楽しんだり、ゲームをしたりして交流を深め賑わっていた。

## 2.2. 他大学の例

本学には、外国語使用目的に特化した「ワールドプラザ」、日本語使用目的に特化した「ジャンプラザ」、2017年に開設された多言語での交流を目的とした国際ラウンジ「ステラ」の3つの交流スペースがあるが、他の多くの大学にも国際交流ラウンジ、異文化交流ラウンジ、国際交流スペースと呼ばれる場所がある。これらの場所は常駐スタッフがいる場合もあれば、学生に解放されたラウンジの呼び名であり定期開催の交流イベントの際に主に活用される場合もある。使用する言語の縛りは特になく、催される交流イベントには立教大学<sup>3)</sup>のように日本語を含む様々な言語別に行われる会話セッションを含む大学もある。これらの場所はどちらかといえば、本学のステラに近い。また、留学生の日本語学習支援目的で開設されたものには、お茶の水女子大学の院生TAにより運営される留学生日本語学習支援・交流室<sup>4)</sup>や、明治大学の国際教育センターティーチングアシスタント<sup>5)</sup>などがある。お茶の水女子大学の場合、修士論文、博士論文の日本語、英語チェックも行うなど本格的なサポートが受けられるが、レポートの添削などアカデミックなサポートが中心である点で、本学のジャンプラザとは異なる。また明治大学のTAは、募集時に英

語力に自信がある人や海外留学経験者を歓迎している点で、日本語のみでの対応にこだわり英語力を問わない本学のジャパンプラザTAと異なる。コロナ禍を経てか、どちらの大学もオンラインでの相談も可能となっている。

### 3. オンライン・ジャパンプラザ

COVID-19の影響で、2020年春学期（1月～5月）半ばの3月に留学生の帰国と授業のオンライン化が決定し対面でのジャパンプラザは閉室されたが、ウェブクラスという本学で長年使用されてきた学内ウェブシステムのチャット機能を利用してオンライン上で3週間程度開かれた。留学生は質問があればチャットに書き込みができるというものであったが、時差もあり1、2度留学生からの書き込みがあったもののTAがチャットのメッセージに気づかず返信が遅れるなどし、ほとんど機能しなかった。別科では対面授業時においてウェブクラス自体があまり活用されていなかったこともあり、システムの使い方が留学生にあまり周知されていなかったことが機能しなかった原因と考えられる。

2020年秋学期9月からCJSが本格的にオンライン留学に切り替わった時には、オンライン授業をウェブクラスではなくCanvas(LMS)を使って実施することとなった。そのため、オンライン授業同様にジャパンプラザのあり方の見直しも必要となり、日本人学生との交流を望む学生や日本語力を伸ばしたい学生、学習サポートが必要な学生に対して少しでも支援できるようCanvasとZOOM（Web会議サービス）を使用した「オンライン・ジャパンプラザ」を開設することにした。留学生は、アメリカ、アジア、ヨーロッパなど様々な地域からオンライン授業を受けていたが、大学の方針でジャパンプラザはTAの雇用時間内に運営されることが決まっていたため、同期型のZOOMは対面のジャパンプラザに近い活動形態を想定し、対面時とほぼ同じ時間帯（日本時間午後1時から5時まで）に開放され、Canvasのディスカッションボードは、時差のある国の学生に対応するコンテンツとして提供された。このオンライン・ジャパンプラザの活動には10名程度(2020年度11名、2021年度8名)の学生TAが携わっていた。

#### 3.1. 2020年度秋学期～2022年度春学期までの変遷

これまで対面のジャパンプラザでは、教員がTAの指導を行うことはなかった。数名の教員がTA選考時の面接を行ったり、授業についていくのが大変な留学生や日本語会話練習が必要な留学生をサポートしてもらうためにジャパンプラザに送ったり、時々学生たちに交じってジャパンプラザで雑談をするなどをしてきた教員はいたが、それ以外にTAと関わることはあまりなかった。しかし、オンライン留学に切り替わったタイミングで、常勤講師7名中2名（本稿執筆者）がジャパンプラザ業務を担うことになった。オンライン

授業に切り替わった後はオンデマンド授業も増え、対面授業時と比較して特に日本語の聞き取り練習や発話練習の時間が圧倒的に減少した。加えて、自国からの参加となるため、通常の留学に比べると教師以外の日本人と話す機会が少ないことは明らかであった。そのため、オンラインという制約のある中でも可能な限り日本人との交流の機会を増やす場として、ジャパンプラザの存在意義・役割は大きいと考えられた。その一方で、対面時のようにオンライン・ジャパンプラザを自ら利用する留学生の数は少なく、留学生のサポートがしたいと希望を持ってTAになった日本人学生の活躍の場が減ってしまった。時差の問題やZOOM授業が終われば自国の生活に戻されてしまうオンライン留学中の留学生に、いかにジャパンプラザと関わりを持ってもらうかが課題であった。対面の時とは違い、ZOOMの授業時間中しかCJSとのつながりが感じられない留学生とジャパンプラザをつなぐ仕組みを作るため、事務職員と教員が連携し、TAの活動を支援する必要があった。そこで、一か月に一回、定期的にZOOMでジャパンプラザミーティングを開催し、事務職員とTA、教員が共にジャパンプラザの運営について話し合う場が設けられた。

以下にオンライン・ジャパンプラザの具体的な活動の変遷を記す。

### 3.1.1. 2020年度秋学期

TAが2名体制勤務であったためZOOMセッションを2つ開設し、ZOOM1は留学生が日本語について質問できる「宿題サポート」とし、ZOOM2は対面ジャパンプラザの流れを引き継ぎ、自由に出入りして会話が楽しめる「会話練習」として開設した。宿題サポートは、doodle（無料のオンラインミーティングスケジュールツール）を利用し予約制にした。Canvasのディスカッションボードは、①ZOOMの時間帯に来られない留学生が自由に日本語について質問ができるもの、②TAが日本の情報を発信したり、留学生に国の情報を発信してもらったりするもの、③TAが自由にテーマを決めて留学生とディスカッションができるものの3つを用意した。また、ZOOMの「会話練習」では、1週間に1度TAがペアでイベントを企画し、留学生の呼び込みを図った。

この学期の一番の問題点は、TAが企画したイベントに留学生<sup>6)</sup>が1、2名ほどしか集まらなかったことだ。対面では、留学生は学内にいるついでに立ち寄ることができたものの、ZOOMでは入ってみなければ参加者の様子やイベントの雰囲気を探ることができないので、気軽に参加できず人数が集まらなかったと思われた。さらに、1回のイベントが2時間と長く、時差があり留学生の国では早朝や夜遅い時間帯に開かれるイベントについて、教員はクラスで告知はできても留学生に参加を促すことは難しかった。また、対面の時とは違い、ジャパンプラザ担当教員は国際センターからイベント企画についてTAへフィードバックをするように求められたが、TA指導も一筋縄ではいかなかった。教員が関わることはこの期が初めてで、イベントの2週間前頃にTAからメールで提出された企画書（イ

ベントの流れ)とパワーポイントを見てアドバイスやフィードバックを行ったが、企画書の中には「学部生と留学生がテーマに沿ってお互いの国の文化や違いを紹介する。トピック例：観光地、食べ物」というかなりおおまかな企画や、日本や日本語と関連が無く、なぜジャパンプラザで行うのか目的がわからないものもあり、企画自体から考え直す必要があると思われるものも散見された。さらに、既に作成されたパワーポイントも共に提出されたのでイベントの大幅な変更案は伝えにくく、また対象となる留学生の日本語レベルをどの程度に想定してフィードバックすべきかも悩ましかった。

### 3.1.2. 2021年度春学期の変化

前学期のイベント企画は前述のように企画段階の指導の問題以前に、留学生の集客が難しく、時差がある地域の留学生は一度も参加できないという不公平感があった。そこで時差がある留学生も活用できるように、日本を紹介するビデオ制作に変更することを提案した。そして、ビデオはCanvasのディスカッションボードに投稿させ、ビデオを見た留学生が下にコメントを書けるようにした。また前回のTA企画へのフィードバックを通して、ジャパンプラザTAとはいえ留学生にわかりやすい日本語とはどのようなものなのかイメージできておらず、留学生の日本語レベルについてTAに周知し、初級の留学生でも理解できる日本語で、わかりやすいコンテンツを目指してもらう必要があると感じた。そこで、ビデオは初級学習者向けと中上級向けに分けて作成してもらうことにし、本学で使用している教科書(『初級日本語げんきI&II』、『中級日本語カルテットI&II』)の例文付き文法リストと、各日本語レベル終了時の留学生の作文例<sup>7)</sup>をビデオ作成時の参考資料として閲覧できるようにCanvas上のTA専用のページ(以下TAページ)で提供することにした。そして、パワーポイントを提出する前に企画書を提出してもらうこととし、初級ビデオ作製担当者には企画書とともにビデオで話す内容のスキプトの提出も依頼した。さらに、TAからはスライドを作成する際に留学生が読める漢字が知りたいという要望もあったので、「げんきオンライン」で提供されているExcelシート(教科書の漢字が検索できるもの)もTAページで紹介した。業務内容が細かく注意事項も増えたため、これらの資料は「Canvasの使い方」や「TA業務の流れ」とともに「TAマニュアル」としてまとめCanvasのTAページ上で共有した。

今回の変更により日本語面での指導が行いやすくなっただけでなく、教員側も担当の学生のレベルに合ったビデオをクラスで紹介することができるようになり、日本語クラスとの連携が少し取れるようになった。一方で、今回TAはペアではなく各自でビデオ制作を行うことになったがTAによっては企画書の書き方が「1. ○○について説明する。2. ○○のクイズをする。」など、どのような説明や問題(クイズ)を出題するのか具体的ではなく、ビデオ制作に進むまでに何度も企画の再提出の必要があった学生もいた。

### 3.1.3. 2021年度秋学期から2022年度春学期にかけての変化

前学期は、企画書の質や留学生のレベルに合った日本語を意識してビデオを作成するという点でTAの経験や実力によって個人差があったので、TAが作成した企画書やビデオの中でよい例を本人に了承を得てTA全体で共有し、参考にしてもらった。また、前学期最後に留学生にどんなトピックのビデオがあったらよいかアンケート<sup>8)</sup>を取ったので、その結果をTAと共有してアイデアの参考にしてもらった。その他、同アンケート調査で、TA作成のビデオやディスカッションボードの存在について知らなかったという留学生が複数名いたことが判明したため、オンライン・ジャパンプラザの使い方についての動画を作成し、Canvasのトップページで公開することにした。また、TA作成ビデオが増えてきたため、どのようなトピックのビデオがあるのか一目でわかるように、日本語レベル別（初級・中上級）にビデオタイトルの一覧表を作成し、そこから各ビデオの専用ページに飛べるようにした。

一方、同期型のZOOMについては、2020年秋学期から出入り自由の「会話練習」はあまり活用されていないということが問題視されていた。そこでZOOM1、ZOOM2をともに予約制にすれば、TAと1対1で練習でき、留学生も参加しやすくなるのではと考えそのように変更した。加えて、予約が入っていない時間は飛び込み参加も可能という形にした。また、予約システムも無料で複数のミーティング予約ページが作成できるSuperSaaSに移行した。

これまでは、ZOOM2（会話練習）担当のTAは留学生が来なければ、もう一方の予約制のZOOM1（宿題サポート）に合流し留学生対応を2名のTAで行っていた。しかし今回はどちらも予約制にしたため担当のZOOMを離れることができず、ビデオ制作担当ではなく、ZOOM予約も入っていないTAは、実質的な業務がなく留学生の飛び入りZOOMを待つのみになってしまった。空き時間が生じた場合、2020年度に働いていたTAは日本情報など留学生のためのコンテンツをディスカッションボードに自主的に投稿していたが、この学期はあるTAから空き時間に自分が日本語教育関連の授業で学んだことを他のTAに共有したいという申し出があった。そこで、日本語教育関連情報をTA間で共有する勉強スペース（ディスカッションボード）をTAページに追加した。このページは日本語教育に興味がある学部生と院生TAがそれぞれの授業で学んだことを共有し、コメントし合うスペースとして活用された。上記学生の例のようにTAの中には、与えられた仕事をこなすだけでなく、積極的に留学生や同じ立場のTAに有益な情報を提供したり、改善案を提案したりして自律的に行動する者もあり、ジャパンプラザでの活動を通して成長している姿が見られた。

#### 4. オンライン・ジャパンプラザアンケート結果

オンライン2学期目の2021年春学期から2022年春学期までの3学期間、学期終了後留学生を対象に無記名でアンケートを実施し<sup>9)</sup>、オンライン・ジャパンプラザについて聞いた。本稿では、自主的にオンライン・ジャパンプラザを活用した留学生の数を調べるため、日本語のクラスで宿題としてジャパンプラザを活用していたクラス（本稿執筆者担当の日本語Ⅰ、日本語Ⅳ）を除いた結果を以下に報告する。概ね半数の留学生から回答を得た（表1）。

表1 アンケート回答率

実施学期	回答数
2021年春	17 / 33名 (51.5%)
2021年秋	13 / 31名 (41.9%)
2022年春	13 / 27名 (48.1%)

表2より、どの学期もオンライン・ジャパンプラザを自主的に利用していた留学生は一定数いたことがわかる。「時間がない」という理由が利用しなかった、もしくは利用できなかった最大の要因であり、これは「ZOOM会話練習／宿題サポート」を日本語クラスでの活用とは別に自主的に利用した学生が少数であったことの理由とも共通している（表3）。ジャパンプラザの使い方動画を作製したにも関わらず「知らなかった」と回答した学生も毎学期いた。一方、ZOOMを利用した留学生はどの学期も「役に立った」「大変役に立った」と回答しており<sup>10)</sup>、自由記述の回答には「TAが親切であること (helpful and kind)」「わからないところをゆっくり説明してもらえてよかった」「習った日本語を使う良い機会があった」「宿題がなくても話せてよかった」などの肯定的なコメントが得られた。

表2 今学期オンライン・ジャパンプラザのページを見たか

実施学期	はい	いいえ	いいえの理由
2021年春	7名 (41.2%)	10名 (58.8%)	・時間がなかった8名 (80%) ・その他 (時間が合わない) 2名 (20%) ※ZOOMの時間について答えている
2021年秋	9名 (69.2%)	4名 (30.8%)	・時間がなかった4名 (100%)
2022年春	10名 (76.9%)	3名 (23.1%)	・時間がなかった2名 (66.7%) ・ジャパンプラザのページを知らなかった1名 (33.3%)

表3 ZOOMの会話練習／宿題サポートを利用したか

実施学期	会話練習		宿題サポート	
	はい	いいえ	はい	いいえ
2021年春	4名 (23.5%)	13名 (76.5%)	2名 (11.8%)	15名 (88.2%)
		いいえの理由		いいえの理由
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がなかった/時間が遅い 8名 (61.5%)</li> <li>・知らなかった 2名(15.4%)</li> <li>・行くのが怖かった 1名 (7.7%)</li> <li>・興味がなかった 1名 (7.7%)</li> <li>・その他 (必要がなかった。) 1名 (7.7%)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がなかった/時間が遅い 6名 (40%)</li> <li>・知らなかった 3名(20%)</li> <li>・行くのが怖かった 2名 (13.3%)</li> <li>・興味がなかった 2名 (13.3%)</li> <li>・その他 (必要がなかった。) 2名 (13.3%)</li> </ul>
会話練習&宿題サポート				
	はい		いいえ	
2021年秋	8名 (61.5%)	5名 (38.5%)		
		いいえの理由		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らなかった 3名 (60.0%)</li> <li>・時間がなかった 1名 (20%)</li> <li>・興味がなかった 1名 (20%)</li> </ul>		
2022年春	4名 (30.8%)	9名 (69.2%)		
		いいえの理由		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間がなかった 5名 (55.6%)</li> <li>・興味がなかった 2名 (22.2%)</li> <li>・知らなかった 1名 (11.1%)</li> <li>・行くのが怖かった 1名 (11.1%)</li> </ul>		

表4 ①ビデオを見たか ②ビデオはどうだったか

実施学期	①ビデオを		②ビデオは	
	見た	見なかった	よかった	とてもよかった
2021年春	7名 (58.8%)	10名 (41.2%)	3名 (42.9%)	4名 (57.1%)
2021年秋	9名 (69.2%)	5名 (30.8%)	6名 (66.7%)	3名 (33.3%)
2022年春	11名 (84.6%)	2名 (15.4%)	8名 (72.7%)	3名 (27.3%)

表5 ②でビデオがよかったと答えた理由

実施学期	ビデオがよかったと思う理由 (人)				
	トピックがよかった	日本について新しい情報が知れた	日本語の勉強になった	日本人の学生が作っているから	その他
2021年春	6名 (85.7%)	7名 (100%)	7名 (100%)	3名 (42.9%)	2名 (28.5%)
2021年秋	7名 (77.8%)	8名 (88.9%)	5名 (55.6%)	2名 (22.2%)	0
2022年春	9名 (81.8%)	9名 (81.8%)	6名 (54.5%)	4名 (36.4%)	0

※その他：・ビデオのリスニングをすることはフレーズや発音を直すのに役立つ  
 ・パワーポイントがかわいかった

表5の結果から、毎学期TAが作成したビデオは留学生から高評価を得ていたことが分かる。ビデオが良かった一番の理由は「日本について新しい情報が知れた」ことだった。ビデオが日本語の勉強に役立つというより、日本についての新しい情報を得られることが留学生にとって重要であるようだ<sup>11)</sup>。これは留学生と同年代の学生TAだからこそ提供できる話題や、授業では習わないような知識・情報を含んでいた点が良かったのではないだろうか。また、「日本語を学ぶことができた」というコメントも自由記述欄に見られたが、ビデオからだけではなく、TAや他の留学生によってディスカッションボードに書き込まれたビデオの感想も学習に役立ったようだった。

## 5. まとめと今後の課題

村田(2022)は、日本の大学の授業を履修している外国人留学生にコロナ禍での留学をどのように感じているかアンケート調査を実施している。その分析結果から「コロナ禍の留学で国内居住者と海外居住者に大きな違いはなく、勉学に関しては、一程度以上できたと答えているが、学生交流に関しては、国内、国外に関わらず、不十分だと感じた学生の割合が、勉学と比べると多かった。」そして、「留学生たちの4分の3がコロナ禍で何らかのストレス、不安、あるいは孤独を感じて」おり、その一番大きい理由が「人とつながれない/日本人とつながれない(42%)」と回答している。2020年より急遽始まったオンライン留学の中で実施された新たなオンライン・ジャパンプラザの活動は、試行錯誤しながらの運営ではあったが留学生に学習支援や人とつながる学生交流の場が提供できた意義は大きいのではないだろうか。

コロナ禍以前はジャパンプラザの活動に関してTAと教員が関わる機会はほとんどなかった。しかし、今回TA・事務職員・教員が共に「支援者」という立場で問題点や学生対応の方法、疑問点等について話し合いを重ねたことで、学期を追うごとに運営が改善されてきた。2022年秋学期から留学生が渡日し、オンライン授業から対面授業になるためジャパンプラザも物理的に開室され対面対応に戻る。しかしながら、オンライン・ジャパンプラザで築き上げたものが活用できないわけではない。TAが作成したビデオは日本語教材として役立つものが多く留学生からの評価も高い。そしてZOOMを使った対応は、別科の授業がない水曜日にも利用することができる上、対面時に課題であった初級の留学生がジャパンプラザを利用しにくい(日本語上級クラスの留学生がいると圧倒されて輪に入りにくい)という問題を解決する可能性がある。オンラインでの経験を活かしつつ、今後もよりよいジャパンプラザになるよう支援を続けていきたい。

(注)

- 1) 『南山大学75年史』(2022) 南山大学七十五年史作成委員会 p. 404
- 2) 2020年3月までの開室時間は午後12:45~5:45であった。
- 3) 「Rikkyo Global Lounge」(<https://sites.google.com/rikkyo.ac.jp/globalounge>、参照日2022年8月30日)
- 4) 「留学生日本語学習支援・交流室」(<https://www.cf.ocha.ac.jp/gec-in/j/menu/life/index.html>、参照日2022年8月30日)
- 5) 「国際教育センターティーチングアシスタント」([https://www.meiji.ac.jp/cip/student\\_support/teachingassistant.html](https://www.meiji.ac.jp/cip/student_support/teachingassistant.html)、参照日2022年8月30日)
- 6) 2020年秋学期にオンライン留学をしていた留学生は35名であった。
- 7) 主に渡日後のプレイスメントテスト勉強用に留学生に渡日前に配布されていたアドミッションパッケージに含まれる資料。
- 8) 国際センターから承認を得て実施
- 9) 国際センターから承認を得て実施
- 10) 2021年春学期「会話練習=まあまあ役に立った3名(75%)、とても役に立った1名(25%)、宿題サポート=とても役に立った1名(50%)、まあまあ役に立った1名(50%)」、2021年秋学期「とても役に立った8名(100%)」、2022年春学期「とても役に立った3名(75%)、まあまあ役に立った1名(25%)」
- 11) TAが作成したビデオには、季節のイベント(おせち料理、バレンタイン・ホワイトデー、ひな祭り)、大学や大学生生活の紹介(入学式、クラブ紹介、就職活動)、名古屋や日本の生活について(地下鉄の乗り方、ゴミの出し方、髪の手入れ、愛知県の方言)、若者や日本文化について(流行りの食べ物と音楽、ファッション、テーマパーク、お弁当、日本の幽霊、祭り)で使う楽器)、日本語に関するもの(オノマトペ、「私」を表す表現)等のビデオがあった。

参考文献

- 村田晶子(2022) コロナ禍の「日本留学」—外国人留学生の孤独とレジリエンス—Studying in Japan during the COVID-19 Pandemic: International Students' Loneliness and Resilience 『多文化社会と言語教育』 Vol. 2 pp. 1-15

# Practical report on Japan Plaza

## —Changes in activities from face-to-face to online study abroad—

Miyuki DOI, Fumika KAMEI

### Abstract

The online study abroad program in Nanzan University started in 2020 due to the spread of COVID-19. Japan Plaza, which was one of the venues for the exchange between Japanese and international students, was also forced to rethink its role as it was unable to provide face-to-face services. After the transition to online classes, the amount of Japanese language practice international students had decrease compared to face-to-face classes. They also had fewer opportunities to talk with native Japanese speakers who were not their instructors, since they were taking classes from their respective countries. The TAs, administrative staff, and Japanese language instructors of the Center for Japanese Studies (CJS) attempted to work together to operate the new Online Japan Plaza, believing that it could play a significant role, even online, in providing more opportunities for interaction. Although some obstacles, such as time difference, had to be overcome, the initiative led to Japan Plaza being able to continue offering learning support and provide a venue for students to communicate with Japanese native speakers and learn more about Japan throughout the period of the online study program in a meaningful way.

**Keywords** : short-term international students, online, exchange, Japanese language support, TA